

疑問に思うことは……

5月20日（火）、藤江小で活動している村田SPに会いに行きました。昨年度末から活動している村田SP。他の市町でもボランティア活動をしているそうで、積極的に現場で学んでいる熱心なSPさんです。見に行った時は、音楽の授業の支援に入っていました。先生の指示・指導は教室後方でしっかり聞いて、活動の時間になると教室全体を見渡して気になる子のそばに自然に近づいていました。いろいろな子どもたちがいますが、教室には“静かに困っている子”が一定数います。「誰かに助けてほしい。不安だから確認したい。でも、声を出すのは恥ずかしい。」そんな子どもたちの心の声を敏感に感じ取って支援してくれていました。持っているセンスも素晴らしいですし、きっとSP活動の中で一生懸命考えながら、真摯に活動に取り組んでくれているからこそ、こうした動きができるのだと思います。



「今まで活動していて、困っていることとか具体的に困った場面はなかった？」と聞いてみたら、「距離の取り方をどうしたらいいのか悩んでいます。（人との）距離が近い子とどのような距離感で接していくと良いのでしょうか……？」と胸の内を教えてくださいました。この悩み、他のSPさんも持ったことがあるのではないのでしょうか。男性のSPさん（先生）は特に、一度は悩んだり迷ったりすることなのではないかと思います。私は、「よし、それはぜひ先生に聞いてみよう！」と伝えました。

どの職種でも同じだと思いますが、まずは自分で考えることが大切です。しかし、それと同じくらい、人（現場の先生）に聞いてみることも大切です。「聞きにくいなあ」「時間がないなあ」と思うかもしれませんが、そこは一步勇気を振り絞ってぜひ先生方に聞いてみてほしいなと思います。（もちろん、様子を見て、ですが……。）SPは“スクール・パートナー（＝教職員の仲間）”です。パートナー（仲間）として、先生たちと一緒に子どもたちを支えてくれる存在になってくれたら、成長してくれたら、と東浦町の



先生方も思ってくださいています。（「気になったら聞いてほしい！」と言ってくれる先生が本当に多いです。）きっと、みなさんからの質問にはしっかり答えてくださるはずです。そうして教えてもらったことは、ぜひ実践してみてください。目の前の子どものためにもなります。みなさんの力にもなります。Win-Winな活動、それが東浦町のSP活動です。